

ヤングケアラーに ひと息つかせて



啓発シンポジウム「ヤングケアラーにひと息つかせて」

2025年3月12日(水) 18:30-20:00

会場(NPOアクセス 名古屋市西区那古野1-20-30 定員20人)

オンライン(Zoom使用 定員180人)

参加費 無料

啓発シンポジウム 「ヤングケアラーにひと息つかせて」 開催のお知らせ

株式会社 マザーズ

弊社の事業につき、日頃よりご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、私たちは、障がい者・児への支援事業(名古屋市、津市)等の援用により、精神疾患をもつ親と子どもの「家族まるごと」支援の取り組みを行っています。

このたび、その一環として、標記のとおり、ヤングケアラー(若年介護者・児)をテーマとしたシンポジウムを開催することとしました。

厚生労働省によると、全国の中学生の17人にひとり、大人の代わりに家事や介護といった家族の世話を担っています。

彼ら彼女たちの向き合う困難とプレッシャーは計り知れなく、何より、その大きな貢献について、私たちは認める必要があると考えています。

シンポジウムでは、ヨーロッパで始まった「ヤングケアラーアクションデー」を記念し、イギリスからの報告と、アジア・ミャンマーおよび日本国内における先駆的な実践の紹介をもとに、今年のテーマ「Give Me a Break(ひと息つかせて)」について、ともに考えてまいりたいと願っています。

つきましては、関係機関の皆さまにぜひともご参加を賜りたく、次のとおりご案内申し上げます。

Noguchi



◀ 詳細・参加登録はこちら
<https://soteria.jp>

日時 **2025年3月12日(水) 18:30 - 20:00**

場所 **NPOアクセス** (名古屋市西区那古野1-20-30 5階)
オンライン (Zoomを使用します)

定員 **会場20人+オンライン180人**

対象者 保育・教育、医療・保健福祉の従事者、
ヤングケア当事者とその家族、その他どなたでも

参加費 無料

■基調講演

「ヤングケアラーの生きる世界 in England 2025 (仮)」

演者

Andy McGowan (ケアラーズ・トラスト 英国・ロンドン)

ケアラーのための、ケアラーとともにある慈善団体。無報酬の介護者が社会的に認知され、自身の生活に必要なサポートを生み出すことを目的としたキャンペーンを行っています。

■意見交換

「ヤングケアラーにひと息つかせるには？」

指定発言

Htet Eain Khin (アウンクリニック・医師 ミャンマー・ヤンゴン)

高齢の祖父の介護をしつつ育つ、地域に根ざした精神医療の実現に向けた「権利に基づくアプローチ」を実践。WHOとの協働により、地域における性と生殖に関する健康サポートもを行っています。

Kon-kond Oo (NPOアクセス 名古屋市)

福祉サービスの枠を超えた地域包括ケアシステムにおいて、精神疾患をもつ家族およびヤングケアラーを積極的に受け入れています。

ノグチユウタロウ(わっぱの会 名古屋市)

障害のある人もない人もともに育ち働く社会を目指して、家族による学習会などのピアサポート活動にも取り組んでいます。

進行

イマハールみほ(株式会社マザーズ)

高田ゆき子(ソテリア大門)

第四回YCAD実行委員会

事務局 ソテリア大門

電話 050(3797)2801

メール kodomo@soteria.jp

主催 株式会社マザーズ

共催 NPO東京ソテリア・NPOアクセス・株式会社シロシベ

後援 名古屋市(申請中)、愛知県(申請中)、
ミャンマー大使館(申請中)、プリティッシュカウンシル(申請中)

ヤングケアラー・アクションデー(YCAD)とは

ヤングケアラーや成人したケアラーが直面する課題について社会の認識を高め、彼らが健やかに生活できるよう支援を促す日です。2012年から慈善団体「ケアラーズ・トラスト」によって欧州各国で広まり、政界やスポーツ、文化芸能界などさまざまな分野の人々に参加を呼びかけています。

2025年のテーマ:「Give Me a Break(ひと息つかせて)」

このテーマは、数百人のヤングケアラーの意見を踏まえて選ばれました。彼らが必要としているのは、「責任から解放される時間」と「周囲の理解とサポート」の二つです。ヤングケアラーは家族の世話を担う中で、自分のための時間を持たず、心理的ストレスを抱えやすい傾向にあります。休息やリフレッシュの機会が少ないことが、深刻な燃え尽き症候群のリスクを高めています。そのため、介護の責任から一時的に解放され、自分自身のことに取り組める時間が必要です。趣味の時間や友人と過ごす時間を確保し、他の子どもたちと同じような日常を送ることが重要です。

また、「Give Me a Break」は、学校の先生や地域の人々に向けたメッセージでもあります。ヤングケアラーが家庭での責任と学業の両立に苦しんでいることを理解し、サポートすることが求められています。たとえば、学校での柔軟な対応や地域での支援体制が整えば、彼らの負担を軽減し、学びやすい環境を作ることができます。

行動を起こすために

2025年のヤングケアラー・アクションデーでは、「Give Me a Break」をテーマに、ヤングケアラーが学び、成長し、適切に評価され、充実した人生を送れるよう支援することを目指します。この日に、あなた自身ができることを考え、周囲の人々と共に社会の意識を高める行動を起こしてみてください。